

フィンドレー大学留学報告書

鈴木ひばり

早いもので、留学報告書を書くのも今回が最後となりました。始まるものには何事にも終わりが来るといいますが、まさか自分の留学生活にも終わりを告げようとしているなんて、今でも実感がありません。日本に帰ったら、留学に行き、アメリカで約1年暮らしたことが夢のように感じそうです。

留学最後の4月はたくさんの予定があり、とても充実した日々を過ごすことができました。

まず初めに、皆既日食が8日にありました。日本でも皆既日食は2017年にあったので、私は2回目の皆既日食でした。しかし、アメリカの人の皆既日食への情熱が凄まじく、わざわざ休日に設定して、みんなで集ってみるほどでした。私は友達がお家に呼んでくれたので、友達のお家で一緒に見ましたが、午後3時頃に太陽が月で隠れて世界が真っ暗になるのは私にとって奇妙なことに感じ、世界が滅亡する時はこんな感じなのかななどSFの世界に飛んだ想像をしました。行事ひとつをとっても、アメリカの人は日本人よりも楽しもうとする気持ちが強く、その国民性が私は大好きです。

26日には「フェアウェルパーティ」がありました。これは、日本人留学生が主役のもので、私達が招きたいゲストを招き、日本人1人ずつスピーチをします。今年は、スピーチの他にも、歌や思い出の写真がたくさん載った動画など、盛りだくさんのフェアウェルパーティだったと思います。



フェアウェルパーティには、たくさんの方が来てくれて、私達ってこの一年間で異国の地でこんなに友達を作れて、そして自分の居場所も見つけられて本当に良くなったなとみんなにも感心し、そして自分なりに納得のいく留学生活になったなと感ずることができました。フィンドレー大学にいる、日本人の先生お二方になつと世話になつたので、日本人留学生みんなで色紙を作つて渡せたり、今までの感謝を形にすることができた会でもありました。

28日には、「choir」の最後のコンサートがありました。choirの先生には本当にお世話になつた1年間でした。この先生自身も韓国人であるということもあり、留学生の気持ちを理解して下さり、前の学期からお家に呼んでいただいたり、今学期もコンサート前にお家に招待していただきました。また、今年の春学期にはヨーロッパツアーも率いて下さり、本当に感謝しかありません。コンサートも最大限のパフォーマンスができたと思います。

この1年間の留学は、私の人生にとってとても大きなターニングポイントでした。この留学を通して、英語力はもちろん、コミュニケーション能力、そして英語を人前で話すことを恐れない力もつけることができました。



私は留学に来た自分を褒め称えたいほど、留学に来て得られたものが大きかったです。是非、留学に行きたいと迷っている方は海外に飛び立って欲しいです。想像以上の出会いが絶対に待っています。

留学を通して、自分の夢を見つけることも出来ました。この留学は私自身の色を彩ってくれる大きな要になりました。留学を支えてくれた家族、ここで出来た違う国の友達、日本の友達、出会った先生方、全員に感謝してこのアメリカでの生活を忘れることなく、過ごして行きたいです。この出会えた全ての人に感謝します。

ひばりのフィンドレー大学への2学期留学
【完】

